

韓国の科学館に行ってきました その3

私は2024年12月に、全国科学館連携協議会が開催する海外科学館視察研修に参加する機会をいただき、韓国の3つの科学館を公式訪問しました。その2に続いて、この研修を通して見学・体験させていただいた展示やプログラムなどを紹介します。

Seoul Robot & AI Museum

最後に公式訪問したのは、Seoul Robot & AI Museumです。2024年8月に開館した施設で、ロボットや人工知能(AI)をテーマにした展示で構成されています。観覧には予約が必要で、館のスタッフと会話をしながら観覧していくスタイルがとられています。このスタイルは韓国では新しいようです。

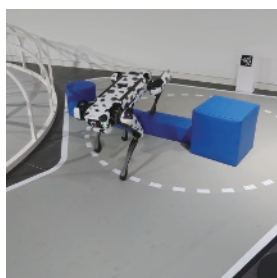
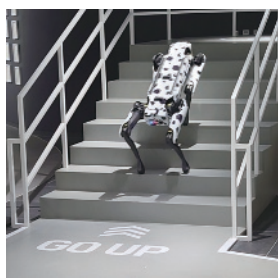


同行してくださったスタッフの背中を見ると、“I’m human”と書かれていました。「この方は本当に人間？もしかして正体はロボットなんじゃないか？」と思わせるようなこの館ならではの工夫が制服に施されていました。制服にも何か工夫を凝らすことで、館の魅力アップにつなげる方法があるのだと感じました。



左のロボットはサッカーロボットで、Aliceと名前が付けられています。人型のロボットで、ボールを蹴ることができます。蹴ったボールがゴールに入ったのを認識すると、喜ぶこともできます。

この展示には、なぜロボットは人の形に造られるのかを問いかける意図が込められているようです。

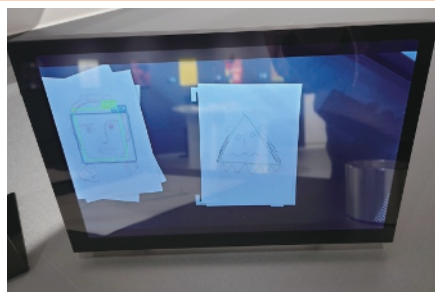
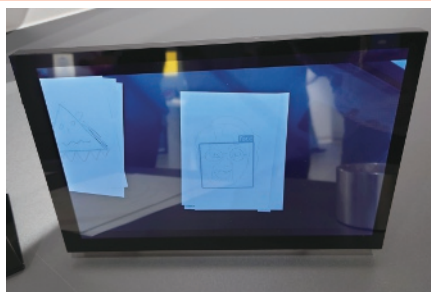


左は犬型のロボットです。研修中、このタイプのロボットを何度か見ましたが、ここではダルメシアンのような柄をしていました。

でこぼこ道や障害物もなんのその、トンネルもくぐり抜けていました。また、姿勢を変えることなく、階段の昇り降りもできていました。

このロボットにはセンサーが付いていて、動いているときに人間が触ろうとすると避けるようにされていました。ロボットに嫌がる動作を備えさせているように思いました。

「人の顔がわかる」ってどういうこと？



上の2枚の写真は人工知能による顔認証を活用した展示で、私の中で一番印象に残ったものです。鏡と筆記具、そして紙が用意されていて、自画像を描くことができます。その自画像をカメラに写し、モニターに表示させます。すると、AIがその自画像が人の顔かどうかを識別します。人の顔と認識されれば、“face”と枠付きで表示されます。認識されなければ、何も表示されません。人の顔だと認識されないギリギリの顔を描けるかどうかを、AI相手に試すことができます。AIが顔を識別するプロセスを通して、「人の顔がわかる」とはということなのかを問いかけているようです。

「韓国の科学館に行ってきました」は今回で終了です。ありがとうございました。

木村 優斗(科学館学芸員)